

28年10月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成28年 10月1日～ 28年10月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
10月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/10月	11月	12月
仕入 動向	国産材製材品	28.6	0.0	△ 28.6
	外材製材品	7.1	△ 7.1	△ 28.6
	構造用集成材	25.0	△ 8.3	△ 25.0
消費 動向	国産材製材品	50.0	7.1	△ 35.7
	外材製材品	35.7	7.1	△ 35.7
	構造用集成材	41.7	0.0	△ 25.0
在庫 動向	国産材製材品	△ 7.1	△ 21.4	△ 42.9
	外材製材品	0.0	△ 14.3	△ 42.9
	構造用集成材	△ 8.3	△ 16.7	△ 33.3

・国産材製材品の仕入れは10月の増加が、11月は横ばい、12月は減少。外材及び構造用集成材は10月の増加が、11月、12月は減少。

・プレカット部材の消費は国産材、外材製材品及び構造用集成材共に10月の増加、11月の総じてやや増加が、12月は減少。

・プレカット部材の在庫は総じて減少、特に12月の減少が大きい。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	28/10月	11月	12月
受注	35.7	7.1	△ 28.6
加工	57.1	0.0	△ 21.4
受注残	21.4	7.1	△ 21.4

・プレカット工場の受注、加工及び受注残は、10月の増加、11月の横ばいないしやや増加が、12月は減少。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・台風の影響があつて出材減少、価格上昇。スギ管柱（KD材）に引合い増加。在庫は低水準で推移している。
- ・国産材の仕入れは翌月までは増。構造用集成材は、現地、夏休みの穴うめをするためやや増だが、その後は横ばい。羽柄材の消費は国内外共に好調。構造用集成材はいま一。外材製材品以外は、在庫バランスは好調になる予定。
- ・地元業者の注文が増えた。持ち込み材が多いため在庫は余りしない。
- ・受注は順調。やはり合板、WW集成柱等不足気味。

(受注動向)

- ・受注はやや低調。加工は平均値。受注残は減少傾向。
- ・当月は問題ないと思う。翌月からどの程度踏ん張れるかが問題。
- ・11月半ばまでは手一杯の受注。（中国）。地区のPC工場はどこも満杯なので年内この忙しさが続くかも。
- ・順調な受注状況である。